

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	13-135	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Ecologic Correlations of Selected Food Groups with Disease Incidence and Mortality in Switzerland. スイスでの病気の罹患率と死亡率と選択した食品群との生態学的関連		
執筆者		
Harold Besson, Fred Paccaud and Pedro Marques-Vidal		
掲載誌		
J Epidemiol. 2013 23(6): 466-473. Doi: 10.2188/jea.JE20130029.		
キーワード		PMID
生態学的相関、食品、調整利用、死亡率、罹患率、循環器疾患、癌、スイス		24140818
要 旨		
<p>目的： スイスで病気の罹患率と死亡率に影響を及ぼす食事に関する情報が少ない。我々は食品利用と病気の生態学的相関関係を評価した。</p> <p>方法： この生態学的研究期間は 1970-2009 で、食品利用は国際連合の食糧農業機構の食事バランスシートを使用した。年齢調整死亡率 (SMRs) は、スイスの統計学の公的期間から入手した。癌罹患率のデータは 世界保健機関の“Health for all”と Vaud 州の癌登記簿から入手した。食品利用と死亡率および罹患率との関係は総摂取カロリーで調整した多変量の回帰分析によって 0、5、10、15 年で経時的に評価した。</p> <p>結果： 循環器疾患の SMRs では、アルコール飲料と果物摂取は正の相関関係を、魚摂取は負の相関関係を示した。肉や動物性脂肪の動物食品は虚血性心疾患の SMRs のみで正の相関関係を示した。癌に関しては、すべての癌の SMRs と罹患率を利用した解析結果では矛盾が生じた。アルコール飲料と果物は全がんの SMRs と正の相関関係であったが、全がんの罹患率とは負の相関関係であった。SMRs と罹患率との弱い逆相関関係が認められた野菜以外の他の食品では似たような研究結果が得られた。15 年後の結果は動物と野菜製品の相関は逆になり、アルコール飲料と果物の関係は弱くなり、魚との関係は強くなった。</p> <p>結論： 食品利用と病気との生態学的相関関係は、死亡率か罹患率を使用するかによって大きく変わるので、我々の結果を解釈するには細心の注意が必要である。</p>		